

子宮内膜症性嚢胞（チョコレート嚢胞）の手術を受ける方へ

入院後、受け持ち医師から、ご本人とご家族に、手術についての詳しいご説明をする予定ですが、その時の説明をより良くご理解いただくために、下記の内容をあらかじめお読みになって下さい。疑問点、ご不安な点などがございましたら、入院後のご説明の際にお申し出下さい。

手術前の処置などについて

1. 入院後すぐに入院診察（通常の内診、超音波、直腸診など）を行います。
2. その時に剃毛など手術に必要な処置も行います。
3. 手術前日は、腸の中をきれいにするためにかん腸をします。場合によっては、点滴をしながら下剤を飲んでいただきます。

手術について

1. 腹腔鏡を用いて、手術を行います。
2. （両側・右側・左側）卵巣嚢胞に対して（嚢胞核出術・卵巣摘出術）を行います。
3. その他にもおなかの中に子宮内膜症の病変（癒着など）があった場合は、できるだけ治療をします。
4. 不妊症の方、またご希望の方には卵管の通過性を見る検査も同時に行います。
5. 全身麻酔下で行います。麻酔は麻酔科の専門医師が担当します。
6. 手術の傷は、通常おへその下に1 cmのものが1カ所、下腹部に5 mm - 1 cmのものが2-3カ所です。
7. 手術時間は通常2時間程度ですが、麻酔をかける時間などをすべて合わせると手術室にいる時間は4時間近くになります。おなかの中の癒着が強い場合などはもう少し時間がかかることもあります。
8. 摘出した標本は、病理検査（組織を顕微鏡でみる検査）に提出します。結果は外来でご説明します。
9. 患者さんの同意がいただければ、摘出標本を病理検査に支障のない範囲で、研究目的に使用させていただくことがあります。また手術所見のビデオ、摘出標本の写真などは、学会発表などに使用させていただくことがあります。
10. 可能性は非常に少ないですが、次にあげるようなことが起きる場合がありますので、念のためにご説明します。
 1. 出血が非常に多い場合は輸血をします。
 2. 周辺臓器（膀胱、尿管、直腸など）を損傷する場合があります。その場合には修復しますが、手術時間が長くなり、下記のように開腹手術に移行することがあります。
 3. 出血、臓器損傷などの場合は、開腹手術（通常のおなかを切る手術）に移行することがあります。
 4. 病理検査の結果、悪性（がんなど）の病気が発見されることがあります。その場合は追加治療（手術、化学療法）などを行います。

手術後について

1. 手術の2日後頃、診察のうえ退院許可をします。手術の4日後には退院できる方がほとんどです。
2. 手術後の1週間後、1ヶ月後に外来受診していただきます。その間の生活の注意点などは退院時、外来受診時にその都度お話ししますが、術後1週間後から社会復帰できる（お仕事など）方がほとんどです。
3. 卵巣嚢胞は再発をすることがあります。手術後も定期的な外来通院が必要です。
4. 痛みが手術によって改善される程度は個人差がありますが、術後痛みが残った場合も、手術中のおなかの中の所見を参考に、内科的な治療（鎮痛剤による治療、ホルモン療法）などの追加治療で痛みが緩和されるよう、外来でご相談いたします。